

学習度が遅い学習者にどう対応するのか？

- 司会者 森 一生（福井県立武生高等学校 定時制）
提案者 佐々木紀人（青森県教育庁東青教育事務所）
橋本 秀徳（福井県永平寺町立松岡小学校）
安木 真一（京都外国語大学・京都外国語短期大学）

1. 設置趣旨

「学習度が遅い」とはスローラーナーや学習進度が遅い学習者のことを指す。なお、学習障害、識字障害、発達障害など個々に対応が必要なケースについては取り上げない。

学習指導要領の改訂により、児童生徒が学習する言語形式や語彙が増加した。そのため、授業のペースについていける者と、そうでない者の差がより大きくなることが危惧される。そして、後者に対して、教師が適切に対応していくことが今まで以上に求められる。例えば、学習者間の違いを考慮に入れた授業づくりや言語活動、学習者の習熟度に応じた指導・教材教具・課題などに関して示唆に富む発表と議論が深まることを期待する。

2. 提案要旨

(1) 「スローラーナーとは何か？ マクロ的な視点から考えるスローラーナー指導？」

佐々木 紀人

公立中学で教育困難校や低学力校を渡り歩き、スローラーナー指導に力を注いできた経験から、誰しものがスローラーナーになり得ると警鐘を鳴らす。そして、教科教育における具体的な指導法を機能させるには、まずはそれを機能させるための指導の調整が必要だと説く。本討論会では、スローラーナーそのものの存在を考察した上で、スローラーナー指導における「教師のあり方」「集団づくり」等について提案する。

(2) 「繰り返しに焦点をあてた中学校でのスローラーナー指導」

橋本 秀徳

これまで主に指導してきた中学校での経験を踏まえ、特に学習度が遅い学習者に対し意識して行っている10のことを紹介する。それらの共通点として、「繰り返し」が挙げられる。膨大な単語、中学生に定着しにくいと考えられる文法、苦手意識の強い英作文などに対して、どのようにすれば生徒たちが繰り返し学習できるようにするかアイデアを提案したい。

(3) 「高校生と大学生の音声上のつまずきを克服する指導法の提案」

安木 真一

中・高・大での自身の実践と実証研究、そして高校教員とのスローラーナー指導に関する共同研究を踏まえて、特に高校生と大学生の音声上のつまずきについて考察し、それを克服するための指導法について述べる。具体的には音声上のつまずきを「音素レベルから単語レベル」「チャクレベルから文レベル」の2つに分類し、それぞれのレベルでのつまずきを克服する指導法について報告する。